

RECORD

メディア掲載・講演等

- 2022.6 KITAKU 北区広報誌「わがまち北区©No.313/2022」記事に掲載される
- 2022.6.9 吹田市男女共同参画センターにて「若年女性・子供を取りまく貧困の現状と支援の現場とは」をテーマに講演
- 2022.7.6 LIFULL ACTION FOR ALL note にインタビュー記事が掲載される
- 2022.7.6 大阪堂島ライオンズクラブにて「ぬっくの活動概要と子どもたちの実情」をテーマに講演
- 2022.7.20 いくの学園主催「若年女性の支援に関する情報交換会」に参加
- 2022.11.23 読売新聞にぬっくハウスを退居した子どもの記事が掲載される
- 2023.2.7 「子ども・若者の貧困問題に関する全銀協・日証協共同セミナー」において、ぬっくの活動について講演
- 2023.2.14 大阪高等裁判所における、被虐待児・犯罪被害者等の置かれた立場・状況等に関する理解を深めるための研究会で、ぬっくの活動などを講演
- 2023.3.1 学校法人角川ドワンゴ学園(N高/S高)のweb新聞の取材(ZOOM)
- 2023.3.2 東大阪ロータリークラブの定例会にてミニ講話
- 2023.3.16 大阪西ライオンズクラブにてミニ講話

理事一覧

理事長

玉野 まりこ (弁護士)

副理事長

廣瀬 みどり (関西学院大学 人間福祉学部 社会福祉学科 非常勤講師)

理事

相間 佐基子 (弁護士)

乾 隆雄 (元児童養護施設 施設長)

大森 順子 (シングルマザーのつながるネット まえむき IPPO 代表)

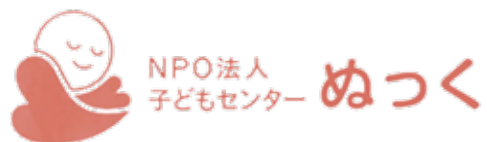
津崎 哲郎 (NPO法人児童虐待防止協会 理事長)

丹羽 有紀 (弁護士)

松下 美穂 (弁護士)

松田 陽子 (俳優、シンガーソングライター、NPO法人self 理事長)

森本 志磨子 (弁護士)



〒530-0047

大阪市北区西天満4丁目1番4号

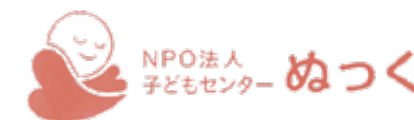
第三大阪弁護士ビル503号葛城・森本法律事務所内

☎ 06-6355-4648

✉ kodomo@nukku.info

ぬっく活動報告書

2022 ANNUAL REPORT



ABOUT

NPO法人

子どもセンターぬっくとは

虐待や貧困、非行等により家に居場所をなくし、心身ともに傷ついているのに、制度のはざまに落ち込み、支援が届きにくくなっている10代後半くらいの子どもたちを支援する団体です。そんな子どもたちに、安心して心身を癒せる生活の場を提供し、自分らしく生きる権利を保障するため、子どもセンターぬっくを設立しました。



私たちが大切にしていること

01

一人にしない支援

生きづらさを抱えた子どもたちの揺れやつまずきに寄り添い、そのままを受け止め、「一人にしない支援」を粘り強く続けていきます。

02

自己責任で終わらせない

たとえ、生きづらさの原因が、本人の特性や課題によるものであっても、「自己責任」では終わらせません。本人の持てる力を信じて、寄り添います。思考停止せず、スタッフ・コタン（子ども担当弁護士）・関係機関等と連携して取り組みます。

03

子どもたちと"社会"をつなぐ

私たちは、生きづらさを抱えた子どもたちを、ぬっくだけで抱え込まず、次の人へ、社会へと「橋渡し」をしていきます。一人ひとりが社会とつながっていて「何かができる自分である」と、互いに実感できる社会をめざします。

子どもシェルター ぬっくハウス



ぬっくハウスとは

虐待・貧困・非行等で安心して帰れる家がなく、今日眠るところのない子どもの緊急避難場所（一軒家・家庭的な雰囲気）です。

おおむね義務教育を終えた15歳～19歳くらいの女子を受け入れています。ハウスでは、傷ついた心と身体を休めてもらい、一緒に次の居場所を探していきます。ハウスにはスタッフやボランティアが常駐しており、一人ひとりに無償でコタンが就くことも特徴です。安全のため、スマホなどの通信機器は使うことができません。また、外出時も必ず大人が付き添います。

理事長挨拶

2022年度もたくさんのご支援をいただきありがとうございました。

本年度、子どもシェルター「ぬっくハウス」における入居者数は、例年に比べやや少なくなりました。その背景には、入居者数を限定したという事情があります。当法人の「ぬっくハウス」、自立援助ホーム「Re-Co」は、いずれも、定員6名として運営しています。しかし、「どのような子どもであってもできる限り受け入れる」という理念のもと、子どもたちにより安心できる環境を確保するためであったり、より丁寧な大人のかかわりが求められるケースであるなど、場合によっては入居の人数を限定し、一定期間新たな受け入れを止めることもあります。より多くの居場所のない子どもたちとつながりたいという思いがある一方で、目の前の子どもたちとのかかわりを大切にしたい。そのような葛藤のある1年でした。

2022年6月に成立した「こども基本法」においては、「こども」を年齢によって区切ることなく、「心身の発達の過程にある者」と規定されています。私たちがかかわる10代後半から20代前半の「こども」たちは、まさに心身の発達の過程の最終段階にあり、大人が丁寧にかかわることのできる最後の機会ともいえます。ぬっくは、今後も一人一人の出会いを大切に、子どもの権利の回復のために取り組んで参ります。

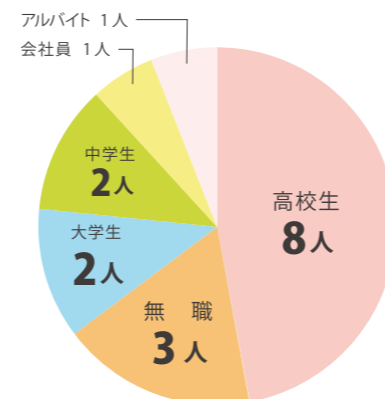


弁護士/NPO法人子どもセンターぬっく理事長
玉野 まりこ

2022年度のぬっくハウス

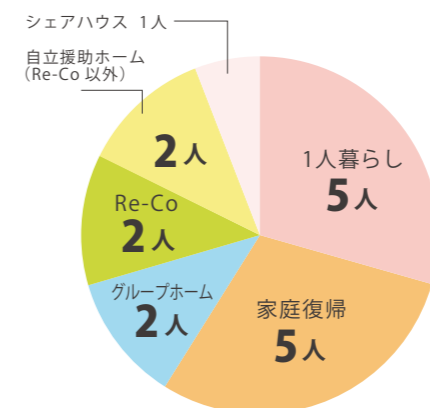
入居した人数

のべ17人



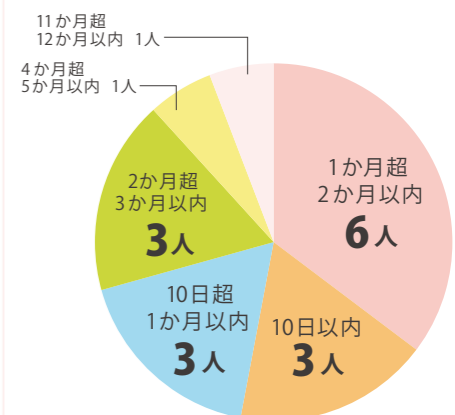
退居した人数

のべ17人



入居日数

平均56日





自立援助ホーム Re-Co

Re-Co
とは

何らかの理由で家庭にいられなくなった子どもたちが、仕事や学校に通いながら、自立に向けて生活する場所です。

ここでは、15歳～20歳くらいの女子を受け入れており、子どもが持っている力を発揮して、自分の意思で自分の人生を選びとり、社会への一歩を踏み出せるようサポートします。
スタッフが常駐しており、コタンや、児童相談所のケースワーカーなど関係機関の協力も受けながら、自立への準備をします。

Re-Coでは
こんなことも
しています

Re-Coミーティング 月1回

コタン、スタッフ、児童相談所のケースワーカーと一緒に、前回のRe-Coミーティングからの振り返りを行い、今後の目標、過ごし方について話し合います。

イベント 月1回程度

2022年度の主なイベントとして、8月にラウンドワンに行ったり、3月にチームラボとスイーツパレードに行ったりしました。

子ども会議 月1回

集団生活をしていく中でお互いに気になっていることを、子どもたち中心で話し合います。



2022年度のRe-Co

入居した人数 **6人** 退居した人数 **8人**

平均入居期間 **274日**
1週間以内1人、3か月以内1人、4か月以内1人、6か月以内1人、10か月以内1人、1年以内1人、1年1か月以内1人、2年2か月以内1人

Re-Co別室について

一人暮らしの練習のため、Re-Coを退居するまでの一定期間、ぬっくが借りている部屋(1DK)で生活することがあります。
2022年度は1人が利用し、9か月間生活しました。この間、コタンやスタッフとの定期的な面談等を重ねながら、高校を卒業し、一人暮らしをはじめることができました。

その他の活動

居場所のない子ども110番(電話相談)

性別を問わず、10代・20代の若者を対象に、フリーダイヤルで受け付けています。
虐待等により、様々な生きづらさを抱えた子どもの悩みや相談を聴き、今後のことを一緒に考えます。
入居相談に限定せず、一人暮らしの支援、他団体との連携、継続相談などを行っています。

電話相談件数
のべ**129**件

退居者等継続支援(アフターケア)事業

ぬっくハウスやRe-Coを退居した子どもたちへ、退居時の引っ越しの手伝いや退居後の生活環境の整備、役所・病院等への同行、子どもの不安・寂しさなどを和らげ精神的な安定を図るための相談や、見守り支援等を行っています。

支援件数
ぬっくハウス退居者 のべ**62**件
Re-Co退居者 のべ**374**件
※うち電話やSNSへのやり取り197件

子どもの諸問題に関する啓発及びネットワークづくり事業

スタッフ・ボランティア養成講座

新型コロナウイルス流行を機にオンデマンドによるスタッフ・ボランティア養成講座を行っています。講座受講後、ボランティア登録を希望する方には、対面での面接を実施しています。

2022年度の受講者数
のべ**24**人
そのうち1名の方が新規ボランティアに登録

児童相談所との意見交換会・ケース会議の実施

8月に大阪府、大阪市、堺市の各児童相談所と意見交換会を行いました。

シンポジウム・定例勉強会の開催

定例勉強会を9月に開催し、若者の就労支援を実施している3団体(一般社団法人キャリアブリッジ、A'ワーク創造館、就労移行支援カラーズ)の方から、就労支援の内容と実情をお話しいただいた後、意見交換を行いました。
2022年度ぬっくシンポジウムでは、ゲストに一般財団法人児童虐待防止機構オレンジCAPO理事長の島田妙子さんをお迎えし、40名の方にご参加いただきました。

ニュースレターの発行及び配布、Facebookへの投稿

HPやFacebookにて活動の様子を発信しておりますので、ぜひご覧下さい。

こちらから



HP



Facebook

子どもの声

ハウスヤリコは どのような場所だったか 01

最初、ハウスに入った時は周りの人がみんな怖かったけどハウスの生活に慣れてきて、他の子たちとかスタッフさんたちと話せるようになってきてだんだん安心できる場所になっていきました。

ごはんは毎日3食、品数も多く、おいしくて、おやつ時間も毎日つき、食べすぎでいました。

ハウスに入ってからも睡眠をとる時間は短かったですが、短い時間でも安心して眠れていたのが、心も休まりました。

リコに入ってからは、学校生活やアルバイトも始まって、バタバタする日もあったけど、時間がある時やしんどくなった時はいっぱい話を聞いてくれました。

これから自立して、リコを出たあとのこととかも一緒に考えてくれました。今まで自分の意志でできなかったことの多くをリコでできるようになって不安なことがあっても背中を押してくれる、そんな場所でした。

スタッフヤコタンは どのような存在だったか 02

家でのことがフラッシュバックしてパニックになった時は落ちつくまでずっとそばに居てくれ、安心させてくれました。

どうしたのか話を聞く時も、自分の気持ちをうまく言葉にできないのをわかって、少しでも話しやすいようにゆっくり話を聞いてくれたり、雑談を交えながら話やすくしてくれたりしてくれたので、スタッフさんやコタンさんと話す時は、少しずつ、自分の気持ちを言葉にすることができました。

スタッフさんやコタンさんは自分がしたいと言ったことを否定せず、応援し、助けてくれました。

退居してからも、退居したからそこで関係は終わりではなく、今もいろいろ話を聞いてくれるし、いろんな支援もしてくれて今でもいちばん頼れる存在です。

ハウスヤリコの中で 印象的だったこと 03

ハウスは学校に行ったり、自由に外出したりはできないけど、一緒に生活している子たちとおしゃべりしたり、テレビを見たり、スタッフさんやボラさんたちと公園に行ったりキャッチボールやバドミントン、バレーをしたり、河川敷に散歩に行ったり、リビングでみんなが筋トレしたり、毎日楽しく過ごしていました。

リコに入ってから、最初の1週間は子どもが自分1人で入居した次の日が誕生日で、子どもは自分以外いなかったですが、いろんなスタッフさんやコタンさんたちが来て祝ってくれて、今まであんなに誕生日を祝ってもらったのは初めてですごく嬉しかったです。

リコで仲良くなった子たちとは、一緒に遊びに行ったり、夜食を買いに行ったり誕生日やクリスマスはみんなのリクエストしたケーキを食べたり、月1回の子ども会議はおかしを食べながらその日の議題を話し合い、終わったあとはそのままみんながカードゲームをしたり、毎日賑やかで楽しかったです。

これからハウスヤリコを 利用するかもしれない人へ メッセージ 04

スタッフさんやコタンさんとお会いするまでずっと否定され続けて生きてきて、誰も信じてあげることができなかったですが、ハウスに入り、自分の思い、すべてを全く否定せず、受け入れてくれ、あたたかく接してくれました。

リコに入ってからも自分のしたいことを否定せず、どうしたら叶えられるか、悩みがあってもどうしたら良い方向に行くか、親身になって、いっしょに悩んで挑戦してくれます。

今、もし、誰ひとり頼れる人がいないと悩んでいる人も、少なくともハウス、リコのスタッフさんやコタンさんは必ず助けになってくれます。

ご支援について

ご支援くださった企業・団体の皆様 (順不同・敬称略)

 赤い羽根共同募金 <small>地域の子どもの福祉のための助成</small>	 H2Oセンター <small>子どもが笑顔のササキになれる。</small>	大阪家庭少年友の会  <small>大阪堂島ライオンズクラブ</small>	
 <small>大阪西ライオンズクラブ</small>	 <small>大阪はなみずきライオンズクラブ</small>	 <small>大阪ホームサービス株式会社</small>	 カタギ食品株式会社 <small>子ども・子育て・介護・高齢者</small>
	公益財団法人 きずな育英基金	国際ソロプチミスト 大阪-梅田	
 こどもサポート 証券ネット <small>日本証券業協会 こどもサポート証券ネット</small>	最光寺	吹田市社会福祉 協議会善意銀行	株式会社 教強塾
株式会社 誠和	千里寺	 大和証券 <small>Daiwa Securities</small>	日本キリスト教団 天満教会 <small>(北区社協善意銀行)</small>
東大阪 ロータリークラブ	 <small>不動産あんしん相談室</small> <small>株式会社 アースコンサルティングオフィス</small>	フロンティア勉強会	豊生肥糧株式会社
公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団	株式会社町屋くらぶ	読売新聞社	
 <small>Little Women Project 若草プロジェクト</small> <small>一般社団法人若草プロジェクト</small>		子どもたちの安心・安全な生活を支えていけるのは、 たくさんの方からご寄付、ご助成をいただいているおかげです。 一部ですがご紹介します。 皆様からの温かいお気持ち、ありがとうございます。	

2022年度の寄付金額

15,641,179円

ご支援くださった会員、寄付者の皆様

正会員	96人	ぬっく応援会員	38人
賛助会員	51人	物品寄付	51件

お米やお菓子などの食品、書籍、食器、衣類などのご寄付をいただきました。また、ホームページに記載した「欲しいものリスト」から、布団乾燥機やバスタオルなどもいただいています。